

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 25 年 4 月 4 日 (2013.4.4)

【公表番号】特表 2012-518162 (P2012-518162A)
 【公表日】平成 24 年 8 月 9 日 (2012.8.9)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-031
 【出願番号】特願 2011-549601 (P2011-549601)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 33/574 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/574 A

C 0 7 K 14/47 Z N A

【手続補正書】
 【提出日】平成 25 年 2 月 15 日 (2013.2.15)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

結腸直腸癌を有する哺乳動物対象が第 1 または第 2 のグループのいずれに属するかを決定する方法であって、第 1 のグループの対象の予後が第 2 のグループの対象の予後よりも良く、

a) 対象由来の早期に得られたサンプルの少なくとも一部における R B M 3 タンパク質の量を評価し、評価された量に対応するサンプル値を決定し、

b) 該サンプル値をあらかじめ決められた参照値と比較し、

該サンプル値が該参照値よりも高いとき、

c 1) 該対象が第 1 のグループに属すると結論づけ、

該サンプル値が該参照値以下であるとき、

c 2) 該対象が第 2 のグループに属すると結論づける

工程を含む方法。

【請求項 2】

結腸直腸癌を有する対象が結腸直腸の処置レジメンでの処置の必要性がないか否かを決定する方法であって、

a) 対象由来の早期に得られたサンプルの少なくとも一部に存在する R B M 3 タンパク質の量を評価し、該評価された量に対応するサンプル値を決定し、

b) 工程 a) において得られたサンプル値を参照値と比較し、

該サンプル値が該参照値よりも高いとき、

c) 該対象が結腸直腸癌の処置レジメンでの処置の必要性がないと結論づける

工程を含む方法。

【請求項 3】

結腸直腸癌を有する対象に対する非処置戦略方法であって、

a) 対象由来の早期に得られたサンプルの少なくとも一部に存在する R B M 3 タンパク質の量を評価し、該評価された量に対応するサンプル値を決定し、

b) 工程 a) において得られたサンプル値を参照値と比較し、

該サンプル値が該参照値よりも高いとき、

c) 結腸直腸癌の処置レジメンでの該対象の処置を控えることを含む方法。

【請求項 4】

該結腸直腸癌がデュークスステージ B であり、該結腸直腸癌の処置レジメンが化学療法剤でのアジュバント全身的処置である、請求項 2 または 3 に記載の方法。

【請求項 5】

該結腸直腸癌がデュークスステージ C であり、該結腸直腸癌の処置が第 1 の化学療法剤、および第 2 の化学療法剤または免疫療法剤を含むアジュバント併用療法である、請求項 2 または 3 に記載の方法。

【請求項 6】

該結腸直腸癌が S 状結腸に位置する、請求項 1 - 5 のいずれかに記載の方法。

【請求項 7】

工程 a) が

a 1) 評価される R B M 3 タンパク質と選択的相互作用が可能である定量化可能なアフィニティーリガンドを該サンプルに適用し、該適用は、サンプルに存在する R B M 3 タンパク質へのアフィニティーリガンドの結合を可能にする条件下で実施し、

a 1 1) 該サンプルに結合したアフィニティーリガンドを定量し、該量を評価することを含む、請求項 1 - 6 のいずれかに記載の方法。

【請求項 8】

請求項 1 - 7 のいずれかに記載の方法を実施するためのキットであって、

a) 20 以下のアミノ酸からなり、配列番号：6 のアミノ酸配列を含む、R B M 3 タンパク質フラグメントと選択的相互作用が可能である定量化可能なアフィニティーリガンド、および

b) 該定量化可能なアフィニティーリガンドの量を定量するために必要な試薬を含むキット。

【請求項 9】

結腸直腸癌に対する予後診断マーカーとしての R B M 3 タンパク質のインビトロでの使用。

【請求項 10】

結腸直腸癌を有する哺乳動物対象に対する予後を確立するための予後診断薬の選択または精製のための、R B M 3 タンパク質またはその抗原的に活性なフラグメントのインビトロでの使用。

【請求項 11】

結腸直腸癌を有する哺乳動物対象に対する予後を確立するための予後診断薬の生産のための、R B M 3 タンパク質またはその抗原的に活性なフラグメントの使用。

【請求項 12】

20 以下のアミノ酸からなり、配列番号：6 のアミノ酸配列を含む、R B M 3 タンパク質フラグメントと選択的相互作用が可能であるアフィニティーリガンド。

【請求項 13】

結腸直腸癌に対する予後診断薬としての、R B M 3 タンパク質と選択的相互作用が可能であるアフィニティーリガンドのインビトロでの使用。

【請求項 14】

R B M 3 タンパク質と選択的相互作用が可能であるアフィニティーリガンドを含む、結腸直腸癌に対する予後を確立するための診断用組成物。